



世界に認められたみなかみの自然と人々の暮らし ～みなかみユネスコエコパークの取組～

みなかみ町 エコパーク推進課

首都圏3,000万人の生活を支える利根川の最初の一滴を生み出すみなかみ町。東京都心から1時間ちょっとで訪れることができる距離にもかかわらず、ここには日本を代表する貴重な自然が数多く残されており、谷川岳に代表される山岳景観や農村景観が広がる自然あふれる町です。

みなかみ町では地域の大切な資源であり宝である豊かな自然を守り、活かし、広め、人と自然が共生する持続可能な地域づくりに取り組んでいます。また、谷川岳のエコツーリズムや、林野庁・日本自然保護協会・地域協議会の3者が協働し、生物多様性の保全や持続可能な地域づくりについて取り組む赤谷プロジェクトなどの多様な取組も進んでいます。

こうした自然環境と人間が共生しながらまちづくりに取り組む姿は世界のモデルであるとユネスコに評価され、平成29年6月「みなかみユネスコエコパーク」が誕生しました。



みなかみ町全景



たくみの里須川宿

ユネスコエコパークは正式名を生物圏保存地域(BR : Biosphere Reserves)といい、ユネスコが昭和51年から始めたユネスコ「人間と生物圏(MAB : Man and the Biosphere)計画」のプロジェクトの一つで、日本では親しみやすいように「ユネスコエコパーク」と呼ばれています。世界自然遺産が手つかずの自然を守ることを原則とするのに対し、ユネスコエコパークは自然と人間が共生する社会を実現することを目的とする取組です。平成29年8月現在、世界120カ国672カ所の地域が登録されており、日本ではみなかみユネスコエコパークを含め9カ所の地域が登録されています。

みなかみユネスコエコパークの登録に伴い、みなかみ町のブランド力やイメージの向上、自然環境保全など多様な効果が期待されますが、最も大切なことは、みなかみ町に住む人々が改めてみなかみ町のすばらしさを認識し「みなかみ町に住んでよかった」と思ってもらうこと、そしてみなかみ町の自然をテーマに町民、事業者、官公庁がまちづくりのベクトルを合わせ、地域が元気になっていくことです。

みなかみユネスコエコパークの登録はゴールではなくむしろスタートです。ユネスコエコパークの理念に基づき、みなかみ町の自然を活かした取組をさらに強化し、みなかみのすばらしい自然と人々の暮らしがずっと続いていくように、水と森林を育み、それを「まもる・いかす・ひろめる」力を携えた「人」を育むみなかみユネスコエコパークをめざしていきます。



大水上山(利根川水源)



谷川岳一ノ倉沢

